

東京に オリンピックは いらない!

見せかけだけの歓迎と、ビクついた警戒 東京オリンピック招致は、かくも後ろめたいものなのか

～ 国際オリンピック委員の東京視察イベントで見えたものは ～

2009年4月17日、晴海。そこは2016年東京オリンピックのメインスタジアムが建てられるかも知れない場所。でもそれは確定ではない。もちろん今は何もない。この日、国際オリンピック委員が視察に訪れる予定となっていた。しかしそこで、奇妙な光景が見られた。

ぞくぞくと集まって来る大学生たち。ざっと200～300名くらいだろうか。その一人に「今日は何の目的で来たのですか?」と尋ねたところ、「ただ『拍手しに行ってみよう。終わったら帰って良い。』と言われて来たんですけど、誰来るんですか?」とそっけない返事。教員がただ拍手することを教育の一貫だと考えて、そのような指示を出したのだろうか。きわめて嘆かわしい事態である。

同日、夢の島公園。小学生が学校毎に校名の書かれたプラカードを掲げて入場した後、好きに遊び回っていたり、給食と書かれた白いテント前に並んだりしていた。一見遠足のようなのだが、不自然である。同じ場所に同じタイミングで、こんなに多くの学校が遠足にやって来るだろうか? プラカードを持っての入場が必要だろうか? 駐車場には彼らが乗ってきた貸し切りの都営バスが30台以上ズ

ラリと並び、そこにはオリンピックの横断幕が付けられ、広場のスピーカからは「パラリンピックが初めて開催された都市は」などオリンピックについてのクイズが流れていた。

しかし現場にいた都の関係者は、「このイベントはスポーツ選手と楽しもうという中身でオリンピック招致賛成反対とは関係ない」と語った。ちくはぐである。国際オリンピック委員を歓迎するのであれば、堂々とクリアにやればよろしい。それができないとは、一体どんな後ろめたいことを隠しているのだろうか? 理由を伝えることさえせず、有無を言わず子供たちを強引に招集することは、教育として許されることではない。

国立競技場。青いジャンパーを着た大勢の者たちが、遊歩道に他の人を入れないよう通行の邪魔していた。

たかだか数名が視察するだけで、市民の自由がこれほどまでに阻害されるということが、これで露呈した。万一、東京でオリンピックが開催されたならどんなにひどい事態になるか、想像してみたい。さわやかなスポーツの祭典とはかけ離れた状況になることを、あなたは望むだろうか。(アツミマサズミ)